

もっと

新連載

えちぜん改善実践舎
越前行夫

改善を³楽しもう!

第1回 ビデオの活用

アキラさんの悩み「ビデオは役に立つのか」

『楽しい改善50講』、『続 楽しい改善50講』に続いて、今月より『もっと改善を楽しもう』という連載を始めます。楽しく改善ができるためのアドバイスを、前シリーズ以上にわかりやすくお伝えしていきます。

さて、新シリーズは、筆者が今まで経験した改善推進者、あるいは現場の作業者の具体的な悩みを毎回取り上げ、なぜ「改善がうまくいかない」のか、なぜ「改善が楽しくない」のかという悩みに対して、ジャストフィットするヒントをアドバ

イスしていく形式です。

今回のテーマは、「ビデオの活用」です。まずは、現場作業者のアキラさんの悩みから聞いてみましょう。

「ある改善の先生に『静の5S(従来の5S)は、現状分析や結果の把握にデジカメを使うことが多いが、動の5S(改善、IE)は動きを伴うので、ビデオが必要になる』と教わりました。そこで、改善テーマを“ムダ取りによる生産性向上”に定めたときに、これは動の5Sなので、早速ビデオで対



象工程を撮影し、メンバーのみんなで見て問題点を出し合ってみました。ビデオは何回も再生できますし、早送りもできて大変便利なのですが、使い方が悪いのか、あるいは自分たちの見方が悪いのか、あまり有効に活用できず結局途中で使うのをやめてしまいました。動の5Sにおいて、ビデオは本当に役に立つのか教えてください」。

なぜビデオをうまく活かすことができないのか

●アキラさんがビデオをうまく活用できなかった理由は、いくつかありそうです。一般的に一番多いのは、作業を表(おもて)準化することなく、今の作業をそのまま撮影してしまうことです。作業者によって、また同じ作業でもその都度、少しずつ作業方法が変わることはよくあることです。手順書がきちんとしていても、どの作業も毎回同じ手順で作業していると考えerことは間違いなのです。

●作業を表準化して、必ず同じ作業、動作が毎回繰り返されるのであれば、ビデオ撮影や時間計測には大きな意味があります。この前提があれば、作業中の小さなムダが毎回繰り返して現れるため、そこに気づけるからです。ビデオを見ながらそのムダを見つけ、取り除けばいいのです。けれども、表準化ができていない状態でビデオを撮影すると、毎回作業が変化してしまうため、ビデオ撮影自体に意味がなくなります。

どうすればビデオをうまく活用できるのか

●ビデオ撮影や時間計測を活用する前提は、作業の表準化であることを肝に銘じてください。たとえムダがあると自覚していても、まずは作業を表準化することです。もちろん、表準化するだけで改善が進むこともあります。できるだけいい方法に統一しようとするからです。したがって、表準化自体が改善のツールであるとも言えます。

●表準化したら、その通りに作業ができるか実験しをしてみましょう。もしできなければ、表準化自体の改訂(これも改善)を実施します。そこまでできて、やっとビデオ撮影あるいは時間計測の価値が出ます。表準化された作業は毎回繰り返されるので、ムダの発見がしやすくなります。また、発見されたムダを取り除き、新たな表準作業に改訂すれば、必ず成果(時間、品質など)が出てきます。このように、表準作業を改善したものを標準作業と呼びますが、今後はこの標準作業が改善のベースになります。

ビデオをうまく活用して、もっと改善を楽しもう

●ビデオ活用のポイントはまだいくつかあります。何を改善するのかによって、ビデオの角度を変化させると効果的です。1つの工程での作業の場合は、その工程に焦点を合わせればいいのですが、複数の工程が対象になっている場合や水すまし(部品供給の専門員)などを対象にする場合は、ライン全体が映るように広角の角度で撮影する必要があります。

●ビデオのメリットは、作業者自身が自分の姿を見ることができることです。自分自身でムダやムリが発見できれば、改善はさらにスムーズに進みます。やらされの改善ではなくなるからです。もちろんビデオだけに頼るのではなく、現場に赴き、現物を見ることも忘れてはなりません。ビデオでは見えなかったことも見えてくるからです。

●ビデオは昔に比べ、撮影も再生も非常に楽になりました。だからといって、たくさんとって溜めてしまうと、結局使いません。ビデオを素早く活用することで、改善をもっと楽しめます。

筆者：えちぜん ゆきお
えちぜん改善実践舎 代表
きむら5S実践舎 コンサルタント
所在地：〒241-0011 横浜市旭区川島町3016-57
TEL：045-383-6388
e-mail：yechizen@v05.itscom.net